ISSN 2186-6287

# GSJ 地質ニュース

地球をよく知り、地球と共生する

2026
11
Vol.15 No.11



産総研 地質調査総合センター

https://www.gsj.jp/publications/gcn/
本誌のPDF版はオールカラーで公開しています.

GSJ 地質ニュース
2026 Vol. 15 No. 11

# 11月号

325 **江戸幕府は何時から利根川東遷を目指したのか？ ―茨城県南部地域で行われた河道開削工事跡の地形・地質学的考察―（後編）** 七山　太

338 **サンゴ礁の島々をつなぐ中核となるサンゴ個体供給源を推定 ―集団遺伝解析と黒潮海流モデルによる海洋のエコロジカルネットワークの可視化―** 齋藤直輝・喜瀬浩輝・井口　亮

341 **宇宙×生物多様性の異分野連携による沿岸環境評価：ハイパースペクトルが明らかにしたクロロフィルのダブルピーク** 山本　聡・水山　克・松岡　萌・池田あやめ・水落裕樹・井口　亮

346 **CCOP-GSJ 地下水プロジェクトフェーズ V 及び CCOP 地質情報総合共有プロジェクト (GSi) 合同ワークショップ開催 ―地下水情報整備と地質情報共有の連携強化に向けて―** 松本親樹・内田洋平・宝田晋治・Joel Bandibas

352 **愛知県瀬戸地区の窯業原料資源の成因に関する考察 ―その 4・珪砂・粘土層に伴う鉄質堆積物「鬼板」に関する若干のデータ―** 高木哲一・須藤定久

358 **受賞・表彰**「令和 7 年度地質調査総合センター研究奨励賞について 米岡佳弥氏，野々垣　進氏，中澤　努氏，小松原純子氏による『埼玉県主要都市部の地下の軟弱層の分布を 3 次元で可視化』が受賞」

**GSJ 地質ニュース編集委員会**

| | |
|---|---|
| 委員長 | 中島　礼 |
| 副委員長 | 戸崎裕貴 |
| 委員 | 宮崎晋行 |
| | 天谷宇志 |
| | 草野有紀 |
| | 宇都宮正志 |
| | 山岡香子 |
| | 大滝壽樹 |

**GSJ Chishitsu News Editorial Board**

Chief Editor : NAKASHIMA Rei
Deputy Chief Editor : TOSAKI Yuki
Editors : MIYAZAKI Kuniyuki
AMAGAI Takashi
KUSANO Yuki
UTSUNOMIYA Masayuki
YAMAOKA Kyoko
OHTAKI Toshiki

事務局
国立研究開発法人　産業技術総合研究所
地質調査総合センター
地質情報基盤センター　出版室
E-mail：g-news-ml@aist.go.jp

Secretariat Office
National Institute of Advanced Industrial Science and Technology
Geological Survey of Japan
Geoinformation Service Center Publication Office
E-mail：g-news-ml@aist.go.jp

GSJ 地質ニュース 第 15 巻 第 11 号
令和 8 年 11 月 2 日　発行

**国立研究開発法人　産業技術総合研究所**
**地質調査総合センター**

〒 305-8567　茨城県つくば市東 1-1-1
中央事業所 7 群

GSJ Chishitsu News Vol. 15 No. 11
November 2, 2026

**Geological Survey of Japan, AIST**

AIST Tsukuba Central 7, 1-1-1 Higashi, Tsukuba,
Ibaraki 305-8567, Japan

ⓒ 2026 AIST

## 利根川東遷事業において最も難航した赤堀川～常陸川上流区間の開削工事 cover photo



利根川東遷事業は，江戸時代初期から明治時代にかけて行われた利根川付け替え工事の総称であり，日本史上最大規模の河川工事として知られている．特に，久喜市栗橋から境町に至る赤堀川～常陸川上流区間の開削工事は，江戸時代中期に 3 度以上も実施され，約 60 年の時間をかけ，1654 年に利根川の水を，分水界を跨いで通水させることに成功した．当初は川幅も 18 m ほどであったが，明治時代以降にも拡張工事が行われ，現在の川幅になったとされる．写真左端の白い建物が関宿城博物館，右隅に見えている橋梁が圏央道利根川高架橋である．

（写真・文：七山　太　産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター／ふじのくに地球環境史ミュージアム）

The most difficult part of the Tone River diversion project was the excavation work between the Akabori River and the upper reaches of the Hitachi River, central Japan.
*Photo and caption by NANAYAMA Futoshi*

GSJ CHISHITSU NEWS 2026 Vol.15 No.11
AIST Geological Survey of Japan
AIST11-G00013-175